

第 43 回 幹 事 会

平成 19 年 10 月 10 日

日 本 学 術 会 議

配布資料

資料 1 議事次第

資料 2 出席者一覧

資料 3 非公開審議事項

資料 4 第42回幹事会議事要旨

資料 5 諸報告事項

資料 6 審議事項

資料 7 「わが国食料生産における資源循環型畜産技術の開発と地域活性化」

参考 1 今後の予定

日 時 平成19年10月10日(水) 16:30～

議 題

I 非公開議事項

1 委員会関係

提案 1 分野別委員会における分科会の委員の決定

提案 2 医療のイノベーション検討委員会の委員候補者の決定

提案 3 ヒト由来試料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委員会の委員の任期及び設置期間の延長

提案 4 研究評価の在り方検討委員会の委員の任期及び設置期間の延長

2 外部推薦依頼

提案 5 委員候補者の推薦

3 その他

II 前回幹事会以降の諸報告

III 審議事項

1 対外報告

提案 6 「わが国食料生産における資源循環型畜産技術の開発と地域活性化」

2 規則等の改正

提案 7 数理科学委員会数理科学振興策検討分科会の設置期間の延長

3 国際会議関係

提案 8、9 連携会員の派遣

4 シンポジウム等

提案 10 「動き出したグローバル COE プログラム：地球研究の展開と研究教育体制の課題」
(シンポジウム)

提案 11 「震災とセーフティ・ネット」(シンポジウム)

提案 12 「第7回産学官連携サミット」

提案 13 「第51回日本学術会議材料工学連合講演会」

提案 14 「21世紀の大学教育を求めて－新しいリベラル・アーツの創造－」(シンポジウム)

提案 15 「歯学教育の現状と将来 Part I 診療参加型臨床教育」(講演会)

提案 16 「食の安全を考える－食品添加物と残留農薬、そのリスクとベネフィット」
(シンポジウム)

提案 17 「デジタルアーカイブと時空間の視点」(シンポジウム)

提案 18 「少子高齢化社会の政策形成と社会学」(シンポジウム)

提案 19 「人口とジェンダー～少子化対策は可能か～」(日本学術会議主催公開講演会)

提案 20 「生殖補助医療の在り方を考える」(日本学術会議主催公開講演会)

5 後援

提案 21 国内会議

IV その他

第 4 3 回 幹事会（10月10日）出席者一覧

会 長	金 澤 一 郎
副会長	鈴 村 興太郎
副会長	浅 島 誠
副会長	土 居 範 久

第一部	部長	広 渡 清 吾
	副部長	佐 藤 学
	幹事	江 原 由美子
	幹事	小 林 良 彰

第二部	部長	唐 木 英 明
	副部長	北 島 政 樹

第三部	副部長	小 林 敏 雄
	幹事	河 野 長
	幹事	大 垣 眞一郎

事務局	谷 口 局 長
-----	---------

諸 報 告 事 項

第 1 前回幹事会以降の経過報告

- | | |
|------------|------|
| 1 会長等出席行事 | P. 1 |
| 2 審議付託等 | P. 1 |
| 3 賞等の推薦 | P. 2 |
| 4 委員会委員の辞任 | P. 2 |

第 2 各部・各委員会等報告

- | | |
|--------------------|------|
| 1 幹事会附置委員会の開催とその議題 | P. 2 |
| 2 部会の開催とその議題 | P. 2 |
| 3 機能別委員会の開催とその議題 | P. 2 |
| 4 分野別委員会の開催とその議題 | P. 2 |
| 5 課題別委員会の開催とその議題 | P. 8 |
| 6 総合科学技術会議報告 | P. 8 |
| 7 人事 | P. 9 |
| 8 逝去 | P. 9 |

第 1 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
9月29日(土) 30日(日)	第17回 AASSREC 総会	鈴村副会長
10月5日(金)	第5回国際自律神経科学会議	金澤会長、村田参事官
10月7日(日) ～9日(火)	STS forum 2007 – Annual Meeting	金澤会長、村田参事官
10月7日(日)	〔表敬訪問・意見交換〕 Hany Helal 大臣(エジプト高等教育省) ほか7名	金澤会長、綱木次長、村田参事官
10月7日(日)	〔表敬訪問・意見交換〕 David King 主席科学顧問(英国)、Chris Pook 科学技術参事官(英国大使館)	金澤会長、綱木次長、村田参事官 他
10月8日(月)	〔表敬訪問・意見交換〕 Cicerone 会長、John Boright 氏(全米科学アカデミー(NAS))	金澤会長、土居副会長、唐木部長(第二部)、綱木次長、村田参事官 他
10月9日(火)	〔表敬訪問・意見交換〕 Bernie Jones 氏(英国王立協会(RS))	金澤会長、土居副会長、唐木部長(第二部)、綱木次長、村田参事官 他

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議・付託先
第6回社会技術フォーラム「ライフサイエンスの倫理とガバナンス 社会と協働する科学技術を目指して」の後援について	社会技術研究開発センター長	第一部、第二部
第31回人間 生活環境系シンポジウムについての後援について	人間 - 生活環境系学会会長	各部部長
学術刊行物の審査について	日本郵政公社東京支社長 日本郵政公社近畿支社長	科学者委員会
平成19・20年度 資格審査会委員及び同予備委員並びに懲戒委員会委員及び同予備委員の推薦について	東京弁護士会会長	第一部

3. 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
Harvey 賞受賞候補者の推薦について	各部	推薦見送り

4 委員会委員の辞任

機械工学委員会

阿部 博之（平成19年9月25日付）

第2 各部・各委員会報告

1 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 憲章起草委員会（第7回）（9月20日）

素案の検討 その他

2 部会の開催とその議題

(1) 第一部 拡大役員会（第10回）（9月20日）

分科会等対外報告案の査読体制について 課題別委員会の設置について
会員及び連携会員の選考手続について 冬季部会と公開シンポジウムに
ついて 学会誌の電子データ化の事業について その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) AASSREC 等分科会（第20期・第13回 平成19年9月20日）

第17回AASSREC総会(2007年9月27日～9月30日、名古屋)の開催について
その他

(2) AASSREC 等分科会（第20期・第14回 平成19年9月29日）

第17回AASSREC総会(2007年9月27日～9月30日、名古屋)の開催について
シンポジウムの開催について
その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 地域研究委員会（第9回）（9月20日）

各分科会の活動報告 地理・人類合同分科会による対外報告案の審議状況
その他

- (2) **地域研究委員会 地域研究基盤整備分科会** (第5回)(9月20日)
アンケート結果について コンソーシアムでのアンケート等について
提言内容について 今後の進行・手続きについて その他
- (3) **地域研究委員会 国際地理開発研究分科会** (第4回)(9月20日)
分科会の「提言」について その他
- (4) **地域研究委員会 地域情報分科会** (第8回)(9月20日)
提言書内容案について シンポジウム内容案について その他
- (5) **地域研究委員会 人文・経済地理と地域教育(地理教育を含む)分科会**
(第9回)(9月20日)
地理教育の対外報告のスケジュールについて 少子高齢化・人口減少社会に
関する課題別委員会準備状況について 地理教育シンポジウムについて
その他
- (6) **地域研究委員会 人類学分科会** (第9回)(9月20日)
地理教育・対外報告(報告) IUAES(経過報告) 多文化共生
分科会シンポジウム その他
- (7) **政治学委員会** (第9回)(9月22日)
9月22日開催 政治学委員会公開シンポジウムの事前打ち合わせ その他
- (8) **史学委員会 IUHPS分科会** (第4回)(9月25日)
「科学史」分科会設置 当面の課題に対する取り組み その他
- (9) **言語・文学委員会 文化の邂逅と言語分科会** (第4回)(9月30日)
梶委員の発表 提言へ向けての審議 その他
- (10) **史学委員会 国際歴史学会議等分科会** (第5回)(10月1日)
国際歴史学会議の総会報告について 国際歴史学会議のアムステルダム
大会の準備について 日韓歴史家会議について その他
- (11) **政治学委員会 政治理論分科会** (第2回)(10月6日)
構成主義的政治理論の可能性について その他
- (12) **政治学委員会 政治過程分科会** (第2回)(10月6日)
20期(～2008年9月末)における政治過程分科会の提言について
来年度のシンポジウムについて その他

(13) 政治学委員会 民主主義と信頼分科会 (第1回)(10月6日)

政治学委員会のあり方 委員長の選出 その他

(14) 政治学委員会 比較政治分科会 (第2回)(10月6日)

比較政治分科会の今後の活動について 来年度のシンポジウムについて
その他

(15) 政治学委員会 行政学・地方自治分科会 (第2回)(10月6日)

行政学・地方自治分科会の今後の活動について 来年度のシンポジウムに
ついて その他

(16) 政治学委員会 国際政治分科会 (第2回)(10月6日)

シンポジウム報告 国際政治分科会のあり方 その他

第二部担当

(1) 健康・生活科学委員会 看護学分科会 (第7回)(9月20日)

班毎の経過報告と討議 その他

(2) 農学基礎委員会 農芸化学分科会 (第4回)(9月22日)

分科会主催シンポジウムの今後の予定について 関連学会との連携策に
ついて 当面取り組むべき課題について その他

**(3) 基礎生物学委員会・農学基礎委員会・生産農学委員会・基礎医学委員会・
臨床医学委員会合同 IUMS分科会 (第5回)**

**基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学基礎委員会合同 総合微生物科学
分科会 (第5回) 合同分科会**

シンポジウム「微生物を知る」の演者と分科会委員の意見交換(自己紹介を
含む) 日本微生物学連盟への加入学会について 日本微生物学連盟の
今後の活動について IUMSへの対応 (・IUMS 役員の推薦
・2014年IUMS Congress について ・IUMS Awards への推薦)
IUMS 2011 準備状況について 「地球環境・温暖化と感染症」
その他 次回分科会の開催日程及び第1回日本微生物学連盟の会合日程に
ついて

(4) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 遺伝学分科会

(第2回)(9月28日)

分科会からの提言について 提言のまとめ方について その他

(5) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 生態科学分科会

(第6回)(9月29日)

大学における生態科学教育の現状について フィールドにおける長期研究
の意義について 「地球温暖化研究における生態科学の貢献」について
その他

(6) 歯学委員会 病態系歯学分科会(第5回)(9月30日)

シンポジウムについて 歯科医療制度の問題について その他

(7) 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会

(第12回)(9月30日)

シンポジウムについて その他

(8) 臨床医学委員会 腎・泌尿・生殖分科会(第6回)(10月1日)

報告書のまとめについて その他

(9) 農学基礎委員会・生産農学委員会合同 C I G R分科会

(第9回)(10月2日)

C I G R 国際会議の計画について C I G R 会則改正について その他

(10) 生産農学委員会 農学教育分科会(第7回)(10月2日)

農学と農学教育の在り方の取りまとめについて その他

(11) 歯学委員会 臨床系歯学分科会(第5回)(10月2日)

シンポジウムについて その他

(12) 基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 医学教育分科会

(第5回)(10月2日)

文部科学省医学教育課長及び厚生労働省医事課長との意見交換 その他

(13) 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会(第7回)(10月3日)

第20期日本学術会議 健康・スポーツ科学分科会提案について

・ 幼児期から発育期の子どもの身体運動・スポーツガイドラインの作成に
向けて - 当該分野における学術的成果の蓄積について -

健康・スポーツ科学関連分野の学術の促進について

1) シンポジウムの開催 2) 若手研究者の育成問題副委員長)

3) 健康・スポーツ科学関連分野における男女共同参画について

以下、学協会オブザーバー参加

健康・スポーツ科学関連学術研究団体との連携の推進

1. 日本学術会議からの報告

- 1) 第20期日本学術会議の組織と健康・スポーツ分野の活動
- 2) 学協会をめぐる諸問題と学術会議の対応
- 3) 健康・スポーツ科学分科会の検討中の課題に関連する各学会への協力依頼
 - ・ 幼児期から発育期の子どもの運動ガイドライン作成にむけて
 - ・ 健康・スポーツ科学関連分野における男女共同参画の現状把握について
- 4) 合同シンポジウム等の開催について
2. 健康・スポーツ科学関連分野の連合組織について
3. その他

(14) **健康・生活科学委員会 子どもの健康分科会** (第8回)(10月4日)
 「子どもの健康」の現状と課題について その他

第三部担当

- (1) **機械工学委員会 機械工学ディシプリン分科会** (第3回)(9月20日)
 各WGの進捗状況報告 分科会アウトプットについて 各WGの審議
 各WGの審議報告とアウトプットイメージの確認 次回予定、その他
- (2) **環境学委員会 環境政策・環境計画分科会** (第2回)(9月21日)
 環境学のフロンティア：脱温暖化社会へのシナリオ、日本学術会議主催
 公開公演会報告 分科会の活動と報告書の作成 今後のスケジュールに
 ついて 話題提供：都市環境計画・政策の現状と課題(石川幹子)
- (3) **健康・生活科学委員会・環境学委員会合同 環境リスク分科会**
 (第4回)(9月21日)
 シンポジウム「子どもの環境保健 - 環境リスクから子どもを守る - 」について
 今後の活動について その他
- (4) **環境学委員会** (第8回)(9月21日)
 公開シンポジウムの報告 分科会からの報告 「学術の動向」環境学
 特集について 今後の活動方針について
- (5) **情報学委員会 セキュリティ・ディペンダビリティ分科会 拡大役員会**
 (第2回)(9月25日)
 講演：「社会システム構成要素としての重要インフラの情報セキュリティと
 その課題」小島一浩 氏(産業技術総合研究所研究員、内閣官房情報
 セキュリティセンター員 併任) 講演：「実社会における情報セキュリティ
 上の現実的課題2007年時点において」高木浩光 氏(産業技術総合研究所
 研究員) 安全・安心・リスク検討分科会との連携について

- (6) **総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会** (第3回)(9月27日)
小委員会、WG活動報告 安全工学シンポジウム2007報告
企業における安全教育 安全の理念的側面からの検討 その他
- (7) **土木工学・建築学委員会 拡大役員会** (第11回)(9月27日)
会員・連携会員候補者の推薦について 各分科会活動報告 その他
- (8) **土木工学・建築学委員会 国土と環境分科会 拡大役員会**
(第1回)(9月28日)
シンポジウムの開催について その他
- (9) **土木工学・建築学委員会 国土と環境分科会** (第6回)(9月28日)
各小委員会報告 話題提供 シンポジウムの開催について その他
- (10) **数理科学委員会** (第4回)(10月1日)
アンケート結果の分析 数理科学振興策の報告書作成について
各分科会報告 数理科学委員会と数学分科会の役割分担
- (11) **物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会** (第4回)(10月1日)
学術の動向の特集について 日本物理学会との連携シンポジウムについて
人材育成WGの活動について 物一分野の研究活動に資する研究基盤
WGの活動について IUPAP関連について その他
- (12) **物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会 拡大役員会**
(第4回)(10月1日)
今後の活動について その他
- (13) **物理学委員会** (第7回)(10月2日)
知覚情報分科会の報告書について シンポジウム報告 会員・連携会員
候補者の推薦について 委員の追加について その他
- (14) **物理学委員会 IAU分科会** (第7回) **物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会** (第6回) **合同分科会** (10月4日)
天文学・宇宙物理学長期計画の今後の進め方について その他

(15) **化学委員会 化学企画分科会（第4回） 化学委員会 大学院教育高度化検討分科会（第3回） 合同分科会（10月4日）**

大学院教育高度化検討分科会アンケート結果及び取りまとめについて
日本学術会議会員及び連携会員候補者推薦について 2011年世界
化学年についての日本での対応について

(16) **総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 W F E O分科会**
(第6回)(10月9日)

今後の活動内容について その他

(17) **総合工学委員会 巨大複雑系経済システムの創成力を考える分科会**
(第4回)(10月9日)

巨大複雑系社会経済システムの特性比較テーブル(改訂版)の審議 各シス
テムの共通項(改訂版)に対する審議 出口の視点に対する審議 その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) **地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討委員会**
(第1回)(9月26日)

出席者紹介 委員長、副委員長、幹事の選出 委員会設置理由説明
今後の進め方等について

1)「地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題」に関するアンケートに
ついて 2)委員からの意見 3)今後の委員会の進め方について
その他

(2) **生殖補助医療の在り方検討委員会（第9回）(9月28日)**
生殖補助医療に関する検討にかかわってきた関係者からみた論点と課題

1)日本医師会の視点から 2)日本弁護士連合会の視点から
3)メディアの視点から 4)法制審議会の視点から
報告書のとりまとめについて その他

(3) **医療のイノベーション検討委員会（第1回）(9月28日)**
委員長、副委員長及び幹事の選出について 今後の進め方について
その他

6 総合科学技術会議報告

総合科学技術会議有識者議員会合

- ・ 9月27日 *会長出席
- ・ 10月4日 *会長出席

7 人 事

事 務 局

参事官（審議第一担当）旧：神代 浩 （平成 19 年 10 月 1 日付）
新：廣田 英樹 （ ” ” ）

8 逝 去

瀬崎 仁（京都大学名誉教授）	第 17 期～19 期	元第 7 部会員
若桑 みどり（千葉大学名誉教授）	第 20 期	連携会員

審 議 事 項

(対外報告)

提案 6 「わが国食料生産における資源循環型畜産技術の開発と地域活性化」 P . 1

(規則等の改正)

提案 7 数理科学委員会数理科学振興策検討分科会の設置期間の延長 P . 2

(国際会議関係)

提案 8 ,9 連携会員の派遣 P . 4

(シンポジウム等)

提案 10 「動き出したグローバル COE プログラム：地域研究の展開と研究教育体制の課題」 (シンポジウム) P . 15

提案 11 「震災とセーフティ・ネット」 (シンポジウム) P . 17

提案 12 「第 7 回産学官連携サミット」 P . 18

提案 13 「第 51 回日本学術会議材料工学連合講演会」 P . 21

提案 14 「21 世紀の大学教育を求めて - 新しいリベラル・アーツの創造 - 」 (シンポジウム) P . 23

提案 15 「歯学教育の現状と将来 Part 診療参加型臨床教育」(講演会) P . 25

提案 16 「食の安全を考える - 食品添加物と残留農薬、そのリスクとベネフィット」 (シンポジウム) P . 27

提案 17 「デジタルアーカイブと時空間の視点」(シンポジウム) P . 30

提案 18 「少子高齢化社会の政策形成と社会学」(シンポジウム) P . 31

提案 19 人口とジェンダー～少子化対策は可能か～」(日本学術会議主催公開講演会) P . 32

提案 20 「生殖補助医療の在り方を考える」(日本学術会議主催公開講演会) P . 34

(後援)

提案 21 国内会議の後援 P . 36

6	
幹事会	4 3

提 案

対 外 報 告

「わが国食料生産における資源循環型畜産技術の開発と地域活性化」

- 1．提案者 生産農学委員会委員長
- 2．議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3．提案理由 生産農学委員会畜産学分科会における対外報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「対外報告」として取り扱うこと

7	
幹事会	4 3

提 案

数理科学委員会数理科学振興策検討分科会の設置期間の延長

- 1 提案者 数理科学委員会委員長
- 2 議 案 分野別委員会分科会の設置期間の延長
- 3 提案理由 （別添理由により）分野別委員会分科会の設置期間の延長を
 する必要があるため。

(様式)

数理科学委員会分科会の設置

分科会等名： 数理科学振興策検討分科会

1	所属委員会名 (複 数 の 場 合 は、主体となる 委員会に 印を 付ける。)	数理科学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	数理科学は現在世界的にも我が国においても活発に研究されている。一方、その研究や応用の範囲は近年において著しく拡大し、また数理科学の高度化にも著しいものがある。我が国における数理科学の研究体制には、漸次変化が起こっているが、それが上記の変化に十分対応しているかは、検討する余地がある。現在、数理科学研究のあり方について、諸方面諸学会で種々の議論がおこっており、研究体制や研究者養成体制などを検討する好機である。日本学術会議数理科学委員会は、諸学会の組織を超えて、数理科学とその周辺分野の研究者が集まっている場であり、そのような検討を行う場にふさわしい。本分科会では、数理科学の研究の我が国における状況および諸外国における状況を調査し、それに基づき、数理科学の振興や研究者養成体制の現在の問題点や望ましい方策を検討する。また、必要な調査も行う。
4	審議事項	1．数理科学の研究の国内における状況 2．数理科学の研究の海外における状況 3．国内および海外における数理科学の研究環境および研究体制 4．国内および海外における数理科学の研究者養成体制 5．上記1，3，4に関する問題点。 6．上記問題点についての可能な対策。 7．その他上記目的に関わること。
5	設置期間	時限設置 2006年 11月 1日～ 2007年 10月31日
	設置延長期間	平成20年9月30日まで延長を希望
	延長理由	アンケート調査の結果、より詳細な調査及び分析が必要なため。
6	備考	

8	
幹事会	4 3

提 案

ICSU Consultation Forum on Natural and Human - induced Environmental Hazards and Disasters への連携会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 ICSU Consultation Forum on Natural and Human - induced Environmental Hazards and Disasters に下記のとおり連携会員を派遣することとしたい。
- 4 派 遣 者 佐竹 建治（連携会員）

25 September 2007

To: International Scientific Unions: Presidents and Secretaries General
National Scientific Members: Presidents and Contact persons
Interdisciplinary Bodies: Chairs and Contact persons

You will recall that on 23 March 2007 we sent you for comment and consultation the draft report of the ICSU Planning Group on Natural and Human-induced Environmental Hazards and Disasters. The Group had been established by the ICSU Committee on Scientific Planning and Review (CSPR) to plan and make proposals on a possible major new, interdisciplinary initiative to be launched by ICSU, in partnership with other like-minded international organizations. In setting the Planning Group its task, the CSPR was aware of the many existing and planned programmes in the area of natural hazards and risk management, and was particularly keen to ensure that the new initiative would not overlap or duplicate with existing programmes, but rather build upon, and complement them. In this respect, ICSU sets great store by wide consultation. In recognition of the complexity of the task of defining a new interdisciplinary programme in the area of natural hazards, and of the need for this wide consultation, and also in recognition of the rather short timetable that was allowed earlier this year, the Planning Group has decided to extend and broaden the consultation. This will include a one-day Consultation Forum to be hosted by ICSU in Paris (the exact venue yet to be announced – you will be informed separately) on 29 October 2007, at which representatives of all those organizations with a direct interest in natural hazards will be invited to send representatives. We very much hope that this event – in the presence of all members of the ICSU Planning Group – will allow a full and open exchange of views and ideas, to the benefit of the programme being planned. We equally hope that you will consider it important for your organization to be represented on 29 October. To enable the representatives to be ready to take part in the discussions, we are enclosing a copy of the latest version of the Planning Group's Report. We regret that ICSU will not be able to provide support for travel or accommodation.

If it happens that your organization cannot participate, we would nevertheless appreciate receiving comments or suggestions in writing, possibly tracked on an electronic copy of the document; all such comments would be brought to the meeting's attention.

5, rue Auguste Vacquerie, 75016 Paris, France

Tel: +33 (0) 1 45 25 03 29 Fax: +33 (0) 1 42 88 94 31 E-mail: secretariat@icsu.org www.icsu.org

Secretariat: Prof. Thomas Rosswall, Executive Director

Officers: Prof. Goverdhan Mehta (India), President • Prof. Catherine Bréchnignac (France), President-Elect • Prof. Jane Lubchenco (USA), Past President
Dr. Khotso Mokhele (South Africa), Vice-President for Scientific Planning and Review • Prof. Hernan Chaimovich (Brazil), Vice-President for External Relations
Prof. Ana María Cetto (Mexico), Secretary General • Prof. Roger Elliott (UK), Treasurer

Based on the consultation, the Planning Group will prepare a final draft of the Report, which will be submitted to the CSPR in April and the Executive Board in May 2008. The final Report will be presented for approval to the 29th General Assembly in October 2008. Meanwhile, a Planning Office to support the process over the coming year has been established in Canada.

We look forward to having a response from you as to whether your organization will be represented at the Consultation Forum, and stand ready to provide you with any complementary information. Please address your reply, or any request for clarification, to Ms Maureen Brennan at maureen@icsu.org.

Yours sincerely,

A handwritten signature in blue ink, appearing to read 'Thomas Rosswall', with a long, sweeping underline that extends to the left.

Thomas Rosswall
Executive Director

Attached: Report of the Planning Group

9	
幹事会	4 3

提 案

ICSU Regional Office for Asia and the Pacific Regional Consultation on the Science Plans への連携会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 ICSU Regional Office for Asia and the Pacific Regional Consultation on the Science Plans に下記のとおり連携会員を派遣することとしたい。
- 4 派 遣 者 吉野 博（連携会員）

REGIONAL CONSULTATION ON SCIENCE PLANS



21 and 22 NOVEMBER 2007

CENTRAL DUANGTAWAN HOTEL,
CHIANG MAI, THAILAND

**CALL FOR PARTICIPATION
CONSULTATION ON THE SCIENCE PLANS OF THE
ICSU REGIONAL OFFICE FOR ASIA AND THE PACIFIC (ROAP)**

21 – 22 NOVEMBER 2007
CENTRAL DUANGTAWAN HOTEL, CHIANG MAI, THAILAND

INTRODUCTION

The ICSU Regional Office for Asia and the Pacific (ROAP) was inaugurated in September 2006. One of its key challenges is to produce a development plan that will define the scope of its work in the short (3 years) and medium-term (6 years). Such a plan must meet the ideals outlined in the ICSU Strategic Plan 2006 – 2011 while fulfilling the priorities and needs of the Asia Pacific region.

The Regional Committee for Asia and the Pacific identified three priority areas of work for ROAP. These are in:

1. Natural and human-induced environmental hazards and disasters;
2. Ecosystem approach in water and food systems; and
3. Sustainable energy.

Natural and human-induced environmental hazards and disasters (hazards and disasters for short) have had devastating impacts around the globe in recent times but nowhere is the loss of lives and property more widespread and intense than in Asia and the Pacific. The ultimate aim of the ICSU ROAP programme on hazards and disasters is to generate new knowledge and understanding that would ultimately result in lowering the loss of lives and property from hazards and disasters. There is a very strong need to reduce the risk of occurrence of disasters in Asia and the Pacific, and to prevent hazards from becoming disasters. This is the primary reason for the selection of hazards and disasters as a priority for ROAP.

In selecting the ecosystem approach in water and food systems as a priority area of work for ICSU ROAP, the Regional Committee has given weight towards changing the mind-set in the approaches used to secure sustainable natural resource and food systems management. Ecosystem goods and services are the basis of all life on earth and are indeed the very basis of all economic development throughout the globe. A modest beginning has been made towards promoting the ecosystem approach through the 5-year Millennium Ecosystem Assessment project that ended in 2004. However, little has been achieved in mainstreaming the approach as the basis of decision- and policy-making for sustainable development, although there are sound ecological and economic bases for doing so. It is envisaged that ICSU ROAP will play a major role in promoting better understanding and adoption of the approach through this priority area of work.

The third priority area in which a science plan need to be prepared, that of sustainable energy, is also one of the priorities identified in the ICSU Strategic Plan. ICSU has established and International Planning Group on Renewable Energy (ISPRE) that has begun to define the priorities for ICSU in this field. Asia and the Pacific house half the world's population and is the host region for two of the most heavily populated nations of the world. It also has highly developed industrial nations that are primary consumers of all forms of energy. Furthermore energy consumption is often linked to many aspects of global warming and climate change. In order to contribute to development that is sustainable, the Asia-Pacific region must implement strong sustainable energy policies. Through work in this priority area, ICSU ROAP aims to make a significant impact to the region's knowledge and understanding on sustainable energy in Asia and the Pacific.

PROGRAMME

The consultation will be undertaken over a two-day period.

Two Science Plans – one on hazards and disasters and the other on ecosystem approach that will be prepared and circulated to all participants will be presented in the context of developments at the global level. Participants will then have the opportunity to provide detailed feed-back on each of the plans in break-out group workshop sessions. The findings of these workshops will be incorporated into the final science plans.

At the same time an initial dialogue on sustainable energy, for which a plan has yet to be developed, will be held to determine the exact scope of work on sustainable energy that ROAP can spearhead. There are many initiatives on sustainable energy and the dialogue is aimed at narrowing the scope of work to be undertaken by ICSU ROAP to a scale that does not duplicate the initiatives of others and will result in the largest impact on the knowledge and understanding of the needs of Asia and the Pacific with regard to the implementation of sustainable energy strategies for sustainable development.

ICSU (ROAP) REGIONAL CONSULTATION,
CHIANG MAI, NOVEMBER 2007

Day 1: 21 November 2007

0900 - 1030 Opening Ceremony

- **KEYNOTE ADDRESS**
Professor Ahnond Bunyaratvej Secretary General NRCT: The National Research Council of Thailand programme in promoting science at the national, regional and global level.
- **SCIENCE LECTURE**
Professor Anupam Varma and Prof Thomas Rosswall: Science in a rapidly changing world – ICSU in the Asia Pacific Region
- **Launch of the Regional Meeting**
Assoc. Prof. Dr. Thirapat Serirangsan, Minister, Prime Minister's Office, Thailand

10:30 – 1050 Break

10:50 – 12:30 Session 1 Plenary Session

Regional Consultation Science Plan in Priority Areas for Asia and the Pacific: Hazards and Disasters

- ***The ICSU Plan of Action on Natural and Human Induced Environmental Hazards and Disasters***
Professor Gordon McBean
Chair, International Planning Group on Hazards and Disasters ICSU
- ***Strategies Towards Addressing the Salient Needs for Hazards and Disaster Management in Asia and the Pacific – The Science Plan on Hazards and Disasters for Asia and the Pacific***
Professor Harsh Gupta
Chair, Strategic Planning Group on Hazards and Disasters ICSU Regional Office for Asia and the Pacific
- Discussion

12:30 – 13:30 Lunch

13:30 – 15:10 Session 2 Plenary Session

Regional Consultation Science Plan in Priority Areas for Asia and the Pacific: Ecosystem Approach

- ***Follow-up Plans for the Millennium Ecosystem Assessment***
Professor Hal Moony
Chair ICSU-UNESCO-UNU MA Follow-up Committee
- ***The Science Plan for the Ecosystem Approach in Asia and the Pacific***
Professor Muhamad Awang
Chair, Strategic Planning Group on the Ecosystem Approach, ICSU Regional Office for Asia and the Pacific)
- Discussion

15:10 – 15:30 Tea Break

15:30 – 17:30 Session 3 Plenary Session

Symposium - Priority Science Issues in the Field of Energy in Asia and the Pacific

1. ***The IAC Study on Sustainable Energy Systems – Relevance to Asia and the Pacific***
Professor Dilip Ahuja
ISRO Professor of Science and Technology Policy Studies, National Institute of Advanced Studies India

2. ***The Main Findings of the ICSU International Science Panel on Renewable Energy***

Professor. H S Mukunda
Indian Institute of Science

3. Dialogue and discussion

Day 2: 22 November 2007

09:00 – 10:30	Session 4A Break-out Group Discussion: Hazards and Disasters Session 4B Break-out Group Discussion: Ecosystem Approach
10:30 – 10:50	Tea Break
10:50 – 12:30	Session 4A continued Session 4B continued
12:30 – 14:00	Lunch
14:00 – 15:40	Session 5 Plenary Session Break-out Group Presentations and Discussion <ul style="list-style-type: none">• Hazards and Disasters• Ecosystem Approach• General and Overall Discussion of Common and Cross-cutting Issues
15:40 – 16:00	Tea Break
16:00 – 17:00	Session 6 Roundtable: Strengthening the Role of the Regional Office (Lead Discussant Prof Anupam Varma) <ul style="list-style-type: none">• Review of Priority Areas in Asia and the Pacific• Forging Stronger Links with Members of ICSU (National Members, Scientific Unions, Interdisciplinary Bodies and Associates)• Developing synergies with the network of Academies, Councils and Science Associations in Asia and the Pacific
17:00	Session 7 Closing and Departures Statement by Chair Regional Committee for Asia and the Pacific – Professor Anupam Varma Statement and Closing by Secretary General NRCT – Professor Ahnond Bunyaratvej.

REGISTRATION FORM

ICSU Regional Office for Asia and the Pacific (ROAP) Regional Consultation on Science Plans

21-22 November 2007

Central Duangtawan Hotel
132 Loykroh Rd., Chang Klan, Muang, Chiang Mai 50100, Thailand
Tel. +66(0) 5390 5000, Fax. +66 (0) 5327 5429
www.centralhotelsresorts.com

PLEASE RETURN BY OCTOBER 1, 2007 TO:

Ms. Choosri Keedumrongkool
Office of International Affairs
The National Research Council of Thailand
Email: choosri@firsticsuroap.org
Fax: 66-2-561 3049

with a copy to Mr. Hizzamdin Jaafar
ICSU Regional Office for Asia and the Pacific
Email: secretariat@icsu-asia-pacific.org
Fax: +603-2691-7961

REGISTRANT INFORMATION

Family Name: First Name: Middle name:

Title ☐ Prof. ☐ Dr. ☐ Mr. ☐ Ms.

Nationality:

Organization/Affiliation:.....
(Name of ICSU Body or the other affiliation/organization)

Address..... City

State/Province Country.....

Zip/Postal Code.....

Tel: Fax: E-mail:

Passport Number:

ICSU ROAP REGIONAL CONSULTATION PARTICIPATION AS

- ☐ ICSU ROAP Regional Committee Member ☐ Speaker ☐ Session chair
☐ Participant ☐ Facilitator

I will attend (*please tick your choices*):

(Wednesday 21st November)

- ☐ Session 1 ☐ Session 2 ☐ Session 3

(Thursday 22nd November)

- ☐ Session 4A ☐ Session 4B ☐ Session 5 ☐ Session 6 ☐ Session 7

ACCOMMODATION

Number of rooms requested:

Type of room requested: ☐ Single room ☐ Double room ☐ Twin room

Accompanying person(s):

.....

.....

Special Request:

Special Dietary Needs:

I prefer ☐ Muslim meal ☐ Vegetarian meal
 ☐ Other (*please specify*).....
 ☐

Arrival date:Nov. 2007 Arrival time: Flight No.:

Departure date: Nov. 2007 Departure time: Flight No.:

VISA

I require an invitation letter in order to obtain a visa:

☐ Yes ☐ No

10	
幹事会	43

提 案

公開シンポジウム「動き出したグローバルC O E プログラム：地域研究の展開と研究教育体制の課題」の開催

- 1 提 案 者 地域研究委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 . 主 催 日本学術会議地域研究委員会、地域研究コンソーシアム、地域研究学会連絡協議会、東北大学東北アジア研究センター
- 2 . 日 時 平成 19 年 11 月 11 日（日）10：30 ～ 16：40
- 3 . 会 場 東北大学片平さくらホール 2 階会議室
（仙台市青葉区片平二丁目 1 - 1）

4 . プ ロ グ ラ ム

開会の挨拶と趣旨説明：家田 修（北海道大学スラブ研究センター・地域研究コンソーシアム会長・日本学術会議連携会員）

報告

- 1) 「コーバスに基づく言語学教育研究拠点」
峰岸 真琴（東京外国語大学地域文化研究科地域文化専攻）
- 2) 「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」
小泉 潤二（大阪大学人間科学研究科人間科学専攻・日本学術会議連携会員）
- 3) 「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」
佐々木雅幸（大阪市立大学都市研究プラザ）
- 4) 「アジア視点の国際生態リスクマネジメント」
松田 裕之（横浜国立大学環境情報研究院自然環境と情報部門）
- 5) 「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」
高村 昇（長崎大学医歯薬学総合研究科放射線医療科学専攻）
- 6) 「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」
杉原 薫（京都大学東南アジア研究所・日本学術会議連携会員）
河野 泰之（京都大学東南アジア研究所）
- 7) 「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」

天児 慧（早稲田大学アジア太平洋研究科国際関係学専攻・日本学術
会議連携会員）

日本学術会議からの報告

「日本における地域研究の教育・研究体制の現状とその改革」

油井大三郎（東京女子大学・日本学術会議会員・日本学術会議地域研究
委員会委員長）

総括討論

閉会の挨拶：加藤 普章（大東文化大学・地域研究学会連絡協議会事務局長・日
本学術会議連携会員）

11	
幹事会	43

提 案

公開シンポジウム「震災とセーフティ・ネット」の開催

- 1 提 案 者 法学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議法学委員会「不平等・格差社会とセーフティ・ネット」分科会、金沢大学、輪島市
- 2 日 時 平成 19 年 11 月 18 日（日）10：00 ～ 12：00
- 3 会 場 輪島市ふれあい健康センター（輪島市河井町 2 - 287 - 1）
- 4 分科会の開催 同会場において分科会を開催予定
- 5 プログラム
司 会：井上 英夫（金沢大学・日本学術会議連携会員、「不平等・格差社会とセーフティネット」分科会委員長）

報告「震災と復興策の現状について」

- 1）石川県内研究者（未定）
- 2）石川県外研究者（未定）
- 3）行政の立場から（未定）
- 4）住民の立場から（未定）

「災害に対するセーフティ・ネット策」について討論

1 2	
幹事会	4 3

提 案

「第7回産学官連携サミット」の開催

- 1．提案者 会長
- 2．議 案 標記について、下記のとおり開催すること。

記

- 1．趣旨
イノベーション創出の具体化に向けた産学官連携の新たな展開
- Create Innovation -

長期戦略指針「イノベーション25」では、人口減少下でも活力に満ち、豊かさを実感できる2025年の社会を目指している。そこに描かれる日本を実現するためには、基礎研究の源を豊かにし、その成果を切れ目なく産業界へつなぐ連続的なイノベーションの創出が不可欠であり、産学官の本格的な協働が求められている。「イノベーション25」が策定された現在、そのロードマップを一步一步着実に具体化し、生活者が実感できる成果に結びつけていく必要がある。そのために、産学官のトップが一堂に会し、産学官の役割と連携の新たな展開について議論を行う。

- 2．主催
内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、
日本経済団体連合会、日本学術会議

- 3．共催【予定】
厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省、
科学技術振興機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構、

日本学術振興会、宇宙航空研究開発機構、海洋研究開発機構、
理化学研究所、産業技術総合研究所、日本原子力研究開発機構、
情報通信研究機構、情報・システム研究機構、
工業所有権情報・研修館、中小企業基盤整備機構

4 . 参加者

産学官のトップ（全体で約 800 人）

5 . 日時

1 1 月 2 6 日（月） シンポジウム 13:00～17:30
交流会 18:00～19:30

6 . 場所

ホテルオークラ東京 「平安の間」(シンポジウム)
「コンチネンタルルーム」(交流会)
住所：東京都港区虎ノ門2 - 1 0 - 4
電話：0 3 - 3 5 8 2 - 0 1 1 1

7 . 内容

- シンポジウム - （13:00～17:30）

(1)開会（13:00～13:10）

福田康夫 内閣総理大臣（メッセージ紹介）

榊原定征 日本経済団体連合会副会長
（東レ株式会社 代表取締役社長 兼 CEO）

金澤一郎 日本学術会議会長

(2)基調講演（13:10～13:40）

岸田文雄 内閣府特命担当大臣（科学技術政策）

(3)特別講演（13:40～14:40）

リチャード・レスター マサチューセッツ工科大学
産業パフォーマンスセンター所長

山田 眞次郎 インクス（株） 代表取締役社長

コーヒープレイク（14:40～15:10）

(4)パネルディスカッション (15:10 ~ 17:25)

第 1 部 スピーカーからの発表

菅原 充 (株) Q D レーザ 代表取締役社長

川口 清史 立命館大学総長

アレン・マイナー (株) サンプリッジ代表取締役会長

第 2 部 全体ディスカッション

(モデレータ)

石倉 洋子 一橋大学教授

(コメンテータ)

山田 眞次郎 インクス (株) 代表取締役社長

菅原 充 (株) Q D レーザ 代表取締役社長

川口 清史 立命館大学 総長

アレン・マイナー (株) サンプリッジ 代表取締役会長

リチャード・レスター マサチューセッツ工科大学 教授
産業パフォーマンスセンター 所長

総合科学技術会議議員

ほか

(5)閉会挨拶 (17:25 ~ 17:30)

- 交流会 - (18:00 ~ 19:30)

1 3	
幹事会	4 3

提 案

「第51回日本学術会議材料工学連合講演会」の開催

1. 提案者 材料工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議材料工学委員会
2. 日 時 平成19年11月27日(火)～29日(木)
3. 場 所 京大会館
(〒606-8301 京都市左京区吉田河原町 15-9)
4. 次 第

第1日目 11月27日(火)

特別講演

11月27日(火)『材料強度に及ぼす水素の影響：安全な水素社会実現をめざして』
／村上敬宜(九州大)

オーガナイズドセッション

1. 材料・構造物の動のおよび衝撃問題
オーガナイザー：小林秀敏(阪大) 西田政弘(名工大)
[基調講演] 衝撃工学から見た日本刀 / 臺丸谷政志(室蘭工大)
2. 高分子材料の構造と物性
オーガナイザー：山根秀樹(京工繊大) 浦山健治(京大) 吉岡真弥(阪市大)
3. 市民にとって良いインフラとそれを支える技術システム
オーガナイザー：河野広隆(京大) 服部篤史(京大) 内田裕市(岐阜大)

第2日目 11月28日(水)

オーガナイズドセッション

1. ナノ材料の創成と解析(日本材料学会ナノ材料部門委員会、日本分析化学会)
オーガナイザー：大塚浩二(京大) 河合 潤(京大)

[基調講演] キャピラリーアセンブルド・マイクロチップ -

多種高機能分子集積化マイクロ流体デバイスの開発とマルチセンシングへの応用 -
/ 久本秀明 (大阪府立大)

2 . ナノメディシン - 研究と人材育成 -

オーガナイザー：岩田博夫 (京大)

[基調講演] ナノメディシンの現状と展望 / 平岡真寛 (京大)

3 . 循環型社会における木質資源のポテンシャル

オーガナイザー：湊 和也 (京大) 村田功二 (京大) 森 拓郎 (京大)

[基調講演] 木質バイオマスの素材・材料としてのプロスペクト / 西尾嘉之 (京大)

第3日目 11月29日(木)

ミニシンポジウム 『機械科学に基づく材料強度・信頼性評価』

オーガナイザー：庄子哲雄 (東北大) 坂 真澄 (東北大) 三浦英生 (東北大)

オーガナイズドセッション

1 . 材料の弾塑性挙動とそのモデリング・シミュレーション

オーガナイザー：今谷勝次 (京大) 長岐 滋 (東京農工大) 吉田総仁 (広島大)

2 . 高温機器の劣化損傷・き裂評価とその非破壊検出法

オーガナイザー：武正文夫 (IHI) 緒方隆志 (電中研)

3 . バルク金属ガラスの組織構造および変形と破壊

オーガナイザー：松原英一郎 (京大) 中井善一 (神戸大) 渋谷陽二 (阪大)

早乙女康典 (東北大) 市坪哲 (京大) 向井敏司 (物材機構)

[基調講演] 金属ガラスの構造安定性 / 松原英一郎 (京大) 渋谷陽二 (阪大)

14	
幹事会	43

提 案

日本学術会議第一部公開シンポジウム
「21 世紀の大学教育を求めて - 新しいリベラル・アーツの創造 - 」の開催

- 1 提 案 者 第一部部長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 . 主 催 日本学術会議第一部、学校法人梅村学園中京大学
- 2 . 日 時 平成 19 年 12 月 1 日（土）13：30 ～ 17：30
- 3 . 会 場 中京大学（名古屋キャンパス）16 号館アネックス 6 階 - 7 階
アネックスホール（名古屋市昭和区八事本町 101 - 2）

4 . プ ロ グ ラ ム

司 会：小林 良彰（慶應義塾大学教授・日本学術会議第一部幹事）

開会の挨拶：広渡 清吾（東京大学教授・日本学術会議第一部部長）
梅村 清弘（学校法人梅村学園総長・理事長）

趣 旨 説 明：油井大三郎（東京女子大学教授・地域研究委員会委員長）

報 告：潮木 守一（桜美林大学招聘教授・日本学術会議連携会員）
「欧米におけるリベラル・アーツ教育の起源と教訓」

長谷川壽一（東京大学教授・日本学術会議心理学教育学委員会委員長）
「日本におけるリベラル・アーツの歩みとこれから」

鷲谷いづみ（東京大学教授・日本学術会議第二部会員）
「環境危機の時代のリベラル・アーツ」

野家 啓一（東北大学副学長・日本学術会議哲学委員会委員長）
「科学技術時代のリベラル・アーツ」

コメント：奥野 信宏（中京大学総合政策学部長）
池内 了（総合研究大学院大学・日本学術会議連携会員）

1 5	
幹事会	4 3

提 案

講演会「歯学教育の現状と将来 Part I 診療参加型臨床教育」の開催

- 1 提案者 歯学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議 歯学委員会歯学教育分科会
- 2 日 時 平成19年12月6日(木) 13:00～17:00
- 3 場 所 日本学術会議講堂

4 次 第

開催趣旨

近年の社会情勢の変化により、歯科医学教育の中核を占める診療参加型臨床教育の実施にはさまざまな困難が生じている。本講演会では診療参加型臨床教育の現状と問題点を探り、解決策について討論する。

開会挨拶 瀬戸 皖一（歯学委員会委員長、鶴見大学歯学部長）

講 演 者

- (1) 三浦 公嗣（文部科学省医学教育課長）
「歯学教育に求めるもの」
- (2) 厚生労働省歯科保健課
「歯科医師臨床研究へつなげる卒前臨床実習」
- (3) 安井 利一（明海大学歯学部長）
「歯科医学教授要綱改定とその背景」
- (4) 古谷野 潔（歯学教育分科会委員 九州大学大学院歯学研究院教授）

「歯科医師のキャリアパスと診療参加型臨床実習」

(5) 須田 英明 (歯学教育分科会幹事 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授)

「歯科における卒前臨床実習の国際比較」

総合討論

司会

渡邊 誠 (歯学教育分科会委員長、東北大学副学長)

須田 立雄 (歯学教育分科会副委員長、埼玉医科大学客員教授)

閉会挨拶 渡邊 誠 (歯学教育分科会委員長、東北大学副学長)

1 6	
幹事会	4 3

シンポジウム「食の安全を考える - 食品添加物と残留農薬、
そのリスクとベネフィット」(仮題)の開催

1. 提案者 生産農学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、薬学委員会委員長

2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議 基礎医学委員会・薬学委員会合同トキシコロジー分科会
生産農学委員会食の安全分科会

2. 共 催(予定) 日本トキシコロジー学会、日本薬学会レギュラトリーサイエンス
部会、共立薬科大学

3. 後 援(予定) 日本医歯薬アカデミー

4. 日 時 平成 19 年 12 月 7 日(金) 13:30～16:50

5. 場 所 共立薬科大学 メディア講堂

6. 分科会の開催 同会場において分科会開催を予定

7. 次 第

開催趣旨ならびに全体方針

市民の食の安全への関心は衰えを知らないが、病原性微生物、化学物質などの食品中のハザードに由来するリスクについて、市民の間に科学的な認識が浸透するにはまだ道のりがある。とりわけ、市民の関心の高い食品添加物や残留農薬については、知識の不足やそれに伴う誤解が大きく、絶対的な忌避感が強い。そこで本シンポジウムは、市民を対象に開催し、食品に使われている化学物質のリスクもベネフィットも、量と作用との関係に依存するものであることを分かりやすく解説し、食品に使用される化学物質へのバランスのとれた態度を醸成することを目的とする。また、現在の規制の考え方にも

触れる。

なお、今回のシンポジウムは、化学物質の用量 - 反応に対する理解の獲得に焦点を絞ることとし、健康食品、微生物、発ガン物質等は、講演テーマとしてとりあげない。動物薬、サプリメントについても、独立した話題とはせず、冒頭講演（総論）の中で現状の規制や過剰摂取問題について触れる。また、汚染化学物質や微生物の方が大きなリスクを持つが、これらは意図的に使用されるものではないこと、ベネフィットがないことから、今回のシンポジウムでは取り上げない。これについても総論で明瞭に説明する。

現在国際的な話題となっている中国食品の問題は、参加者が食品中の化学物質について考える題材になる。問題には、「質的」違反（許可外農薬の使用など）と「量的」違反（許容濃度を超える使用など）とがあり、両者を区別して考えねばならないことを解説する。これについても総論の中で触れたい。

全体として、科学者の立場から、理論的、原則的に解説し、規制の考え方についても述べるが、できるだけわかりやすく、可能な限り市民の疑問にも配慮した講演とする。

シンポジウムの内容を効果的に社会に還元できるよう、マスメディアの役割にも期待したい。

プログラム案

13:30～13:40 開会挨拶 トキシコロジー分科会 赤堀文昭委員長
・シンポジウムの位置づけ、目的

座長 豊島聰、春日文子副委員長

13:40～14:20 オーバービュー（仮テーマ） 唐木英明第二部部長
・安全を守る基本的な考え方：量と作用の関係（サプリメントの過剰摂取にも言及）
・安全と安心の測り方：食中毒統計とアンケート調査
・安全は守られているのか：規制違反はあるが健康被害はない
・安全と安心の乖離の原因：理解不足あるいは現実論と理想論のずれから来る不信
・報道の役割：社会への警告が行き過ぎると風評被害
・対策：十分なリスクコミュニケーション

あわせて、質的、量的問題とその考え方、動物薬、サプリメントの現状の規制や過剰摂取の問題、汚染物質や微生物は今回シンポジウムでは対象としないこと（大きなリスクを持つが、意図的に使用されるものではないこと、ベネフィットがないことから）についても説明

14:20～14:50 食品添加物のリスクとベネフィット（仮テーマ）

日本食品添加物協会 高野靖専務理事

14:50～15:20 残留農薬(仮テーマ) 農林水産省 山田友紀子審議官

15:20～15:30 休憩 (参加者からの質問表を収集し集計)

15:30～15:50 消費者からの疑問(仮テーマ)

国民生活センター商品テスト部 宗林さおり

・消費者の声を直接聞き、科学的視点から検査・調査に携わる立場として、上記講演を受けて消費者が感じると考えられる疑問や要望、また消費者に理解を促すことが必要なことを提示していただき、パネルディスカッションに繋げる

15:50～16:40 パネルディスカッション、総合討論

16:40～16:50 まとめと閉会挨拶 食の安全分科会 新山陽子委員長

17	
幹事会	43

提 案

公開シンポジウム 「デジタルアーカイブと時空間の視点」の開催

- 1 提 案 者 地域研究委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会、人文科学とコンピュータシンポジウム 2007 (じんもんこん 2 0 0 7)、情報処理学会・人文科学とコンピュータ研究会、地域研究コンソーシアム、京都大学地域研究統合情報センター
- 2 後 援 電子情報通信学会、記録管理学会、情報知識学会、情報考古学会、アート・ドキュメンテーション学会、日本アーカイブズ学会、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会
- 3 日 時 平成 19 年 12 月 13 日 (木) ~ 14 日 (金) 時間未定
- 4 会 場 京都大学 京大会館 (京都市左京区)
- 5 プ ロ グ ラ ム
基調報告
岡部 篤行 (東京大学教授・日本学術会議地域研究委員会地域情報分科員長)

一般講演 30 ~ 35 件 (口述、ポスターセッション、デモ) 講演者未定

18	
幹事会	43

提 案

公開シンポジウム「少子高齢社会の政策形成と社会学」の開催

- 1 提 案 者 社会学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議 社会学委員会少子高齢社会分科会、お茶の水女子大学CSDプログラム・社会政策学会保健医療福祉部会
- 2 日 時 平成19年12月22日(土) 13:00～17:00
- 3 会 場 お茶の水女子大学(東京都文京区)
- 4 次 第

開催趣旨

少子高齢社会に関わる中央・地方府の政策形成への社会学研究者の寄与が一層期待されるようになりつつある状況を踏まえ、社会学および関連諸科学の観点から少子高齢社会に関わる政策形成の現状について分析と評価を行うとともに、望ましい政策形成のあり方を実現していく上で社会学および関連諸科学がどのように貢献しうるかを検討する。

開会あいさつ：平岡公一（お茶の水女子大学教授、日本学術会議連携会員）

講 演

- 1) 佐藤博樹「雇用・労働分野における政策形成の現状と課題」(東京大学教授、日本学術会議連携会員)
- 2) 笹谷晴美「日本型介護施策の課題」(北海道教育大学教授・日本学術会議連携会員)

3) 交渉中

討論など

- 1) 津谷典子（慶應義塾大学教授・日本学術会議会員）
- 2) 武川正吾（東京大学教授・日本学術会議連携会員）

閉会あいさつ：未定

参加申込方法

事前申込みは必要ありません。

19	
幹事会	43

提 案

日本学術会議主催公開講演会「人口とジェンダー～少子化対策は可能か～」の開催

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議
- 2 後 援 東北大学 21 世紀 COE「男女共同参画社会の法と政策」、お茶の水大学 21 世紀 COE「ジェンダー学のフロンティア」、名古屋大学男女共同参画室、日本ジェンダー学会、女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）、日本女性学会、国際ジェンダー学会、総合女性史研究会、女性史総合研究会、女性学研究会（以上決定）、東京大学男女共同参画室、ジェンダー学関連学協会連絡協議会、ジェンダー法学会、ジェンダー史学会、日本スポーツとジェンダー学会、日本女性学研究会（以上交渉中）
- 3 日 時 平成20年1月12日（土）13：00～17：00
- 4 会 場 日本学術会議講堂
- 5 趣 旨

人口は、生殖期にある男女の個人的な意思決定が、集合的な結果を生み出す社会現象である。人口の変動には複合的な要因が関係しており、人為的な統制が妥当であり、また可能であるかについては多くの議論がある。近代において、人口は常に政治的な課題となってきた。歴史的には、戦時下の出産奨励策や、戦後の人口抑制策など、生殖は国家の介入の対象となった。とりわけ、女性の身体管理が人口政策の焦点となってきた点で、人口とジェンダーには密接な関係がある。少子化問題が深刻な社会的課題とされる今日、人口政策は妥当とされるのか、そしてまた人口政策に効果はあるのか。ジェンダー学及びジェンダー史の知見に基づいて、歴史的な検討とともに今日的な課題を考える。

6 次 第

総合司会： 久留島 浩（国立歴史民俗博物館教授、日本学術会議連携会員、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会委員）

コーディネーター及び司会：

桜井 万里子（東京大学名誉教授、日本学術会議第一部会員、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会委員）（第1部）

上野 千鶴子（東京大学大学院人文社会系研究科教授、日本学術会議第

一部会員、社会学委員会ジェンダー学分科会委員)(第 2 部)

開会・挨拶

13:00～13:05 開会挨拶 天野正子 (東京女学館大学学長、日本学術会議連携会員、社会学委員会ジェンダー学分科会委員長)

13:05～13:10 会長挨拶 金澤一郎 (日本学術会議会長)

13:10～13:20 大臣挨拶 上川陽子 (少子化及び男女共同参画担当大臣)(予定)

第 1 部 講演会

13:20～13:25 趣旨説明 桜井万里子

13:25～13:45 「科学史における『産む性』」

小川 眞里子 (三重大学人文学部教授、日本学術会議連携会員、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会委員)

13:45～14:05 「ナチズムと人口管理」

姫岡 とし子 (筑波大学大学院人文社会科学研究科教授、日本学術会議連携会員、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会副委員長)

14:05～14:25 「資源化される身体」

荻野 美穂 (大阪大学大学院文学研究科教授)

14:25～14:45 「グローバル化する東アジアの超低出生率」

落合 恵美子 (京都大学大学院文学研究科教授、日本学術会議第一部会員、社会学委員会ジェンダー学分科会委員)

14:45～15:05 「少子化対策の今」

白波瀬 佐和子 (東京大学大学院人文社会系研究科助教授、日本学術会議連携会員、社会学委員会ジェンダー学分科会委員)

(15:05～15:30 休 憩)

第 2 部 シンポジウム

15:30～16:00 討論 (各 10 分)

討論者： 江原 由美子 (首都大学東京都市教養学部教授、日本学術会議第一部会員、社会学委員会ジェンダー学分科会委員)

杉田 敦 (法政大学法学部教授、日本学術会議連携会員)

武川 正吾 (東京大学大学院人文社会系研究科教授、日本学術会議連携会員)

16:00～16:50 一般討論

閉 会

16:50～17:00 閉会挨拶 長野ひろ子 (中央大学経済学部教授、日本学術会議連携会員、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会委員長)

2 0	
幹事会	4 3

提 案

日本学術会議主催公開講演会「生殖補助医療の在り方を考える」の開催

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議
- 2 後援（依頼予定） 法務省、厚生労働省、社団法人日本産科婦人科学会
- 3 日 時 平成20年1月31日（木）13:30～17:30
- 4 会 場 日本学術会議講堂
- 5 趣 旨

生殖補助医療の在り方、生殖補助医療により出生した子の法律上の取扱いについては、以前から多くの議論がなされており、最近は、明確な方向付けを行うべきという国民の声が高まっていると指摘されている。こうした状況の中、日本学術会議は、法務大臣及び厚生労働大臣から代理懐胎を中心に生殖補助医療をめぐる諸問題について審議を依頼され、生殖補助医療の在り方検討委員会で審議を行っているところである。

本講演会は、委員会で行ってきた検討の状況を広く一般に説明するとともに、様々な立場の参加者との議論を委員会における審議に反映することを目的としている。

6 次 第

13:30 開会

総合司会（予定） 室伏 きみ子（生殖補助医療の在り方検討委員会委員、連携会員、
お茶の水女子大学理学部教授）

会長挨拶 金澤 一郎（日本学術会議会長）

来賓挨拶（依頼予定） （法務大臣、厚生労働大臣、内閣府特命担当大臣（科学技術政策））

委員会報告 鴨下 重彦（生殖補助医療の在り方検討委員会委員長、連携会員、
東京大学名誉教授）

講演 1 「医療面からみた生殖補助医療」

吉村 泰典（生殖補助医療の在り方検討委員会委員、連携会員、
慶應義塾大学医学部産婦人科教授、日本産科婦人科学会理事長）

講演 2 「法制面からみた生殖補助医療」

（未定）

パネルディスカッション 「生殖補助医療はどうあるべきか」

コーディネータ 米本 昌平（生殖補助医療の在り方検討委員会委員、連携会員、
東京大学先端科学技術研究センター特任教授）

パネリスト（予定） 五十嵐 隆（生殖補助医療の在り方検討委員会委員、第 2 部会員、
東京大学大学院医学系研究科教授）

加藤 尚武（生殖補助医療の在り方検討委員会委員、連携会員、
鳥取環境大学客員教授、東京大学大学院医学系研究科特任教授）

久具 宏司（生殖補助医療の在り方検討委員会幹事、特任連携会員、
東京大学大学院医学系研究科講師）

西 希代子（生殖補助医療の在り方検討委員会幹事、特任連携会員、
上智大学法学部准教授）

水野 紀子（生殖補助医療の在り方検討委員会委員、連携会員、
東北大学大学院法学研究科教授）

総括・閉会挨拶 町野 朔（生殖補助医療の在り方検討委員会副委員長、第 1 部会員、
上智大学法学研究科教授）

17:30 閉会

以上

2 1	
幹事会	4 3

提 案

国内会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議
付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

後援する

名 称 等	申 請 者	審 議 付託先
第 6 回社会技術フォーラム「ライフサイエンスの倫理とガバナンス 社会と協働する科学技術を目指して 」の後援について	社会技術研究開発センター長	第一部 第二部
第 31 回人間 生活環境系シンポジウムの後援について	人間 生活環境系学会会長	各 部 部 長